



令和4年は死亡数が出生数を約1万人上回り自然減少が拡大 社会動態では、若い世代を中心に転出超過が続いている

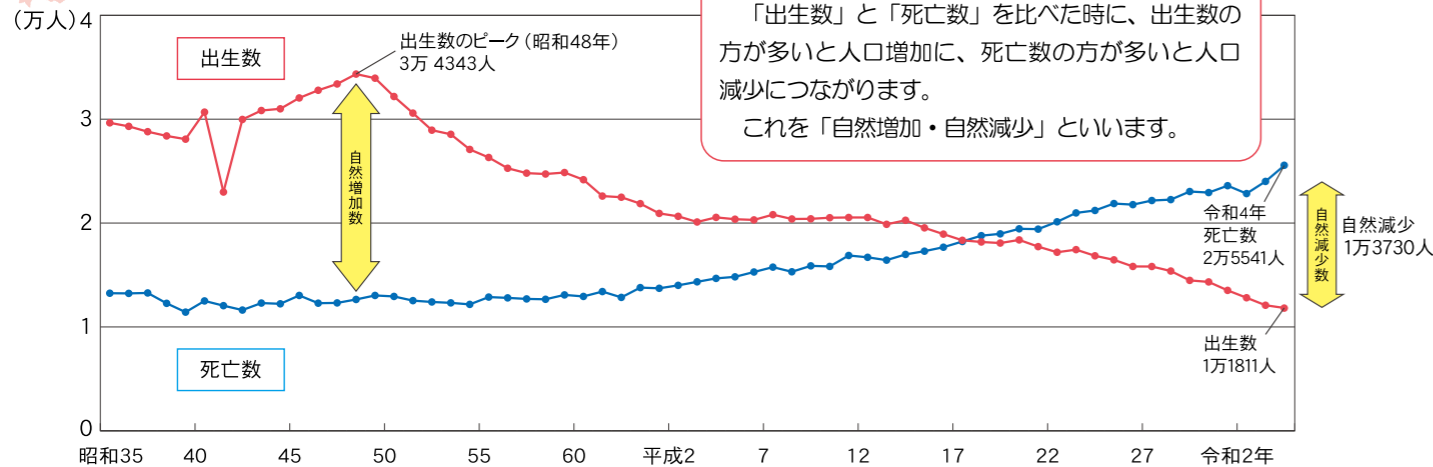
合計特殊出生率が回復傾向にあっても出生数が増加しないのは、母となる女性の減少のため。転入と転出の差を比べた社会動態をみると、若い世代で職業や学業による転出超過が続く。

1世帯当たり人員は2.49人で多い方から全国5位 小家族化は進むが、3世代世帯が多く1人暮らしが少ない

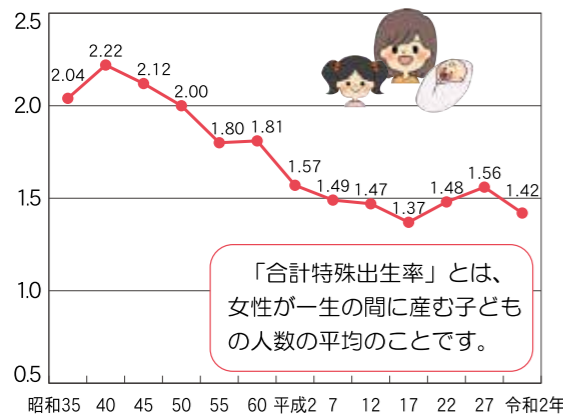
人口減少の一方で世帯数が増加し、1世帯当たり人員は減少しているが、全国の2.21人と比べると多い方。持ち家や、1世帯当たり自動車保有台数が多いことが特ちょう。



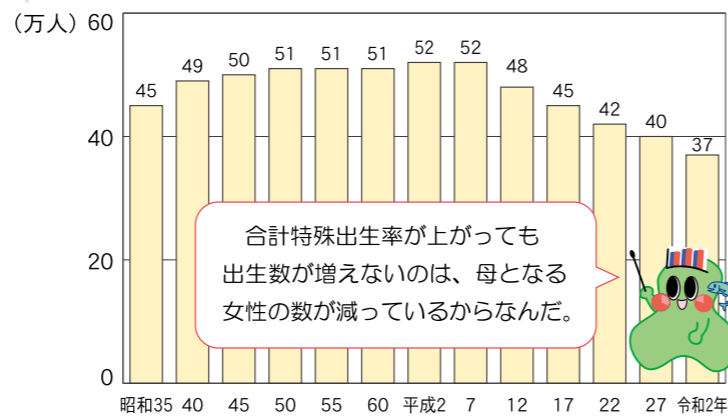
1 出生数と死亡数のうっすり変わり



2 合計特殊出生率

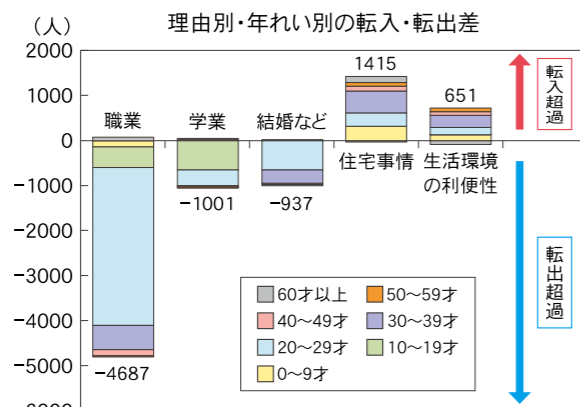


3 15~49才の女性の数



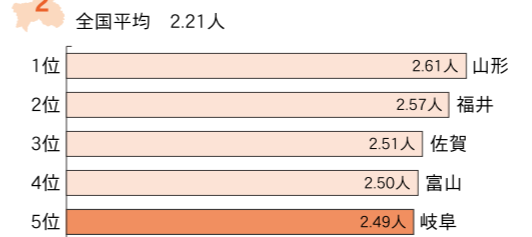
4 転出超過によって1381人の人口減少 (令和4年)

令和4年の転出超過は、1381人となった。理由別にみると、20才代を中心とした若い世代で、「職業」「学業」「結婚など」による転出超過が目立つ。一方、「住宅事情」や「生活環境の利便性」では、転入超過となった。

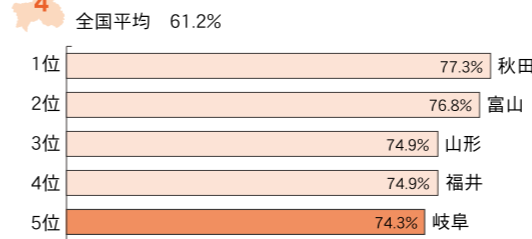


「転入数」と「転出数」を比べた時に、転入数の方が多いことを「転入超過」、転出数の方が多いことを「転出超過」といいます。転出超過によって人口が減ることを「社会減少」といいます。

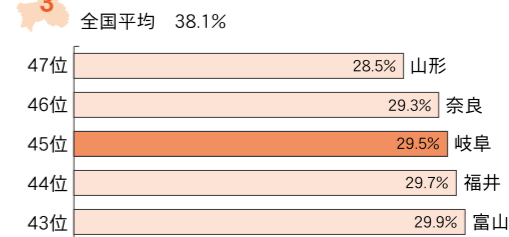
2 1世帯当たり人員



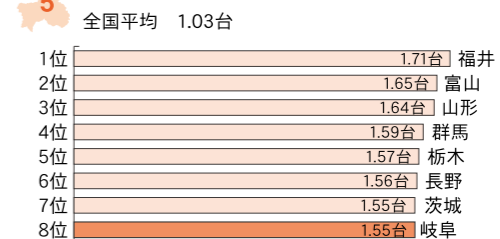
4 持ち家住宅率



3 1人暮らし世帯率

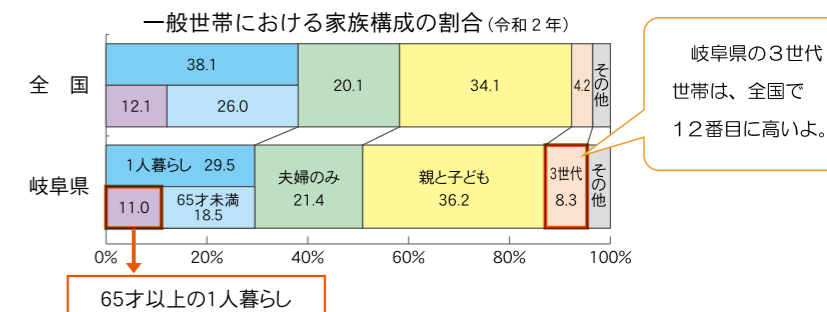


5 1世帯当たり自動車保有台数



6 65才以上の1人暮らしは、9世帯に1世帯

全国と比べると、岐阜県は1人暮らしが少なく、3世代世帯が多い。しかし、小家族化は年々進んでおり、30年前(平成2年)には、33世帯に1世帯であった65才以上の1人暮らしが、令和2年には、9世帯に1世帯となった。



(出典：人口の動き) グラフ1、4:「岐阜県人口動態統計調査」(各年の前年の10月1日から翌年の9月30日までの1年間の数) グラフ2:厚生労働省「人口動態統計」 グラフ3:総務省「国勢調査」(各年10月1日現在) (出典：世帯と暮らし) グラフ1:総務省「国勢調査」(各年10月1日現在) グラフ2、3、6:総務省「国勢調査」(令和2年10月1日現在) グラフ4:総務省「住宅・土地統計調査」(平成30年10月1日現在) グラフ5:一般財団法人 自動車検査登録情報協会「自家用乗用車の世帯普及台数」(令和4年3月末現在)